

件 名	IC タグシステムの導入	問合せ	図書館 22-0706
内 容			
12 月から IC タグシステムを導入し、資料の貸し出しや予約手続きをセルフ化することで、カウンターの混雑を解消し、利用者のプライバシーにも配慮します。また、IC タグで資料を管理することで蔵書点検作業の迅速化が期待でき、来館者の利用機会を確保・創出します。 入口には、セキュリティゲートを設置し、不正持ち出しなどによる資料の亡失を防ぎます。 このほか、マイナンバーカードに図書館カードの機能を付与することで、マイナンバーカードの利用促進にも寄与します。 運用開始日：<u>12 月 2 日（火）</u> 導入前 対面で1冊ごとに貸出・返却作業を行っている 導入後 ICタグ貼付・データエンコード 予約資料セルフ受取棚 自動貸出機でのセルフ貸出 蔵書点検作業の省力化 不正持ち出し防止ゲート 複数のカードを所持しており煩雑		<主な変更点> ○自動貸出・返却サービス セルフ貸し出し機・返却機を設置し、非対面での貸し出し・返却を実現し、利用者のプライバシーを保護する。加えて、貸し出し窓口の混雑を起こすことなくスムーズな貸し出し・返却が可能になる。 ○予約受取サービス 予約資料の貸し出しをセルフ化することにより、利用者のプライバシーを保護し、利便性の高い予約貸し出しの促進を図る。 ○不正持ち出し・亡失防止 セキュリティゲート設置により貴重な資料などの亡失を防止し、所定の書棚以外に戻された図書を早期に発見することも可能となり、来館者の機会損失を防ぐ。 ○蔵書点検期間の短縮に伴う開館日数の増加 資料を IC タグで管理することにより、2 週間程度休館して実施していた蔵書点検の作業期間を短縮し、図書館利用可能日数の増加が見込まれる。 ○マイナンバーカードの利便性向上 マイナンバーカードを図書館カードとして利用することが可能となり、複数のカードの所有が不要となる上、マイナンバーカードの利便性の向上や利用促進にもつながる。	